八郷広報

発行所　八郷町役場　茨城県新治郡八郷町大字柿岡2009　電話（柿岡）4・104・114・149番
印刷所　飯島印刷所　石岡市守木町

戸数と人口
―11月1日現在―

世帯数		5.689
人口	男	15.652
	女	16.435
	計	32.087

冬のくらし

十一月も下旬になると冬の気配が急に濃くなります。冬のくらしを快適にするため次の準備をしましょう。

1 火事の多い季節になるので、煙突の補修やそうじ、配電線の点検をする。
2 水道蛇口の立ち上がり部分が凍らないように、ワラや布を巻いておくこと。
3 北側の窓などで、すきま風のはいるところは、メバリして防いでおくこと。
4 畳には、ホコリのたつのを防ぐため、茶がらやぬれ新聞紙などをまいて、ていねいに掃き出します。

中学校統合促進のいしずえ
地区協議会結成終る

町の中学校統合を促進するため、各地区に促進協議会を結成することになり、九月下旬より準備されていたが、このほどそれぞれの地区で結成が終った。

この協議会は、中学校の統合にあたって、それぞれの学区内の世論を調整して、円滑な統合へのいしずえとなるべきもので、各区の代表者、町議会議員、教育委員、学校長それにPTA、公民館婦人会、青年団の役員や、学識経験者などが含まれて構成され規約を定め、正・副会長と代表委員を選出してつくられている。

また、町では、近く各地区協議会の正・副会長、代表委員、それに町議会議員教育委員、中学校長、各種団体長や町長が推せんする学識経験者による「中学校統合建設促進協議会」が結成される予定です。

中学校統合の地区促進協議会の正・副会長と代表委員は次のとおりです。

〔柿岡〕
会長―滝田源三郎
副会長―平忠
代表委員―上曾知四郎、白井一雄、川井玄一、藤原定志手賀寧

〔小幡〕
会長―桜井嘉幸
副会長―田村正吾
代表委員―渡辺啓治、小林平右エ門、潮田平重郎、桜井光雄、高橋三郎

〔芦穂〕
会長―鈴木桂
副会長―足立作郎
代表委員―岡野茂雄、路川四郎兵衛、井川徳太郎、植竹義弘、野村透一

〔瓦会〕
会長―岡野重雄
副会長―広沢清
代表委員―稲見恵一、鈴木充雄、鈴木重美、比気新一郎渡辺義一

〔恋瀬〕
会長―友部太左エ門
副会長―宮城英一
代表委員―藤柳孝夫、町田常雄、柘植祐寿、大図市太郎、飯島亮

〔園部〕
会長―大槻茂男
副会長―深沢清
代表委員―奥村保太郎、鈴木豊、本多隆男、広瀬栄長谷川義光

〔林〕
会長―鈴木守之輔
副会長―坂野清
代表委員―額賀寛一館藤一上田一清、久家泰明、鈴木隆吉

〔小桜〕
会長―木村源
副会長―松延力光
代表委員―原田伝左エ門、岡崎喜福、田上源三、飯島平次郎、鴻巣久雄

年々ふえる火災
昨年は六百六十万円を灰に

蒸し暑かった夏が過ぎて台風一過秋晴れとともに朝夕の冷気が加わり、火のこいしい季節になりました。火の使用量が増すにつれて多くなるのが火災です。

昨年八郷町に発生した火災は、居宅など全焼十四件で、損害見積りは六百六十四万五千円で、毎日町内のどこかで火災のために、およそ二万円の財産を灰にしている勘定になります。

これを昭和三十四年にくらべてみますと、損害額で四百万円、件数で五件それぞれ増となっています。

ことしになってからは、十一月一日現在、すでに七件の火災が発生しています。

このように消防関係者の努力にもかかわらず、年々増加の傾向にあることは、まことに憂うべき現象です。

十一月二十六日から十二月二日まで防火週間です。町民みんなのいっそうの反省と細心の注意をお願いします。

火災予防をすすめるためには、ことわざにあるように〝勝負をするには相手を知り自らの力を知らねばならぬ〟と同じように、火災の実体をみきわめて、防火対象物の防火上の欠陥を知らねばなりません。そこでいろいろの資料にもとづき、分析してみますと、次のようなことがわかってきます。

すなわち、火災件数の増加は、人口が増加し、加えて生活なり生産なりが発展し、文化的になった反面、防火措置の考慮が必ずしもはらわれずその釣り合いが保たれないために起こっています。

電気による火災、油類による火災など、やたらに発生してしかも、これらの施設の使いかたになれないために拍車をかける結果になり、火災期ばかりでなく、非火災期といわれる夏にも、火災が多くなってきたわけです。

これからの季節は、暖房用として電気器具や炭火の使用が一段と増し、それだけに毎年火災件数もふえてくる時期です。

万一火災が起こった場合は、一刻も早く消防機関のスムーズな活動ができ、被害を最少限にくいとめられるよう、町民のみなさんの協力をお願いします。

これからの火災期を迎えてこの防火週間を機会に、工場、事務所、学校などはもちろん、各家庭の一人一人が火に対する認識を新たにして、火災をほく滅し、豊かな八郷町をつくりたいものです。

防火週間
11月26日～12月2日

農協合併の推進
農業標準労賃　農委振興部会できめる

町農業委員会の第二回振興部会は、十月二十四日役場小会議室でひらかれ、当面大きく問題とされている農業労働賃金、自立経営規模のめやす、農協合併の促進方法を協議された。

農業標準賃金の設定は、町ではじめてのことで県下各市町村をみても未設定町村が大部分ということから多くの農家に注目されていた。

きめられた農業労働賃金と賃借料は、次のとおり。

（単位円）

農業労賃

◇人力

水田耕起	（男）	五〇〇
田植	（女）	四五〇
水田除草	（男）	四五〇
畑整地	（女）	四〇〇
稲麦刈、脱穀	（男）	四〇〇
畑中耕除草	（女）	三五〇
たばこ取り入れ	（男）	三五〇
山刈	（女）	三〇〇

◇牛馬

水田耕起（十アール当り）		五五〇
しろかき（〃）		四五〇
畑耕起（〃）		五五〇
運搬（一日当り）		二〇〇

◇ティラー

水田耕起（十アール当り）		七〇〇
しろかき（〃）		五〇〇
畑耕起（〃）		八〇〇
運搬（一日当り）		三〇〇

農業賃借料

馬借料（一日当り）		七〇〇
牛借料（〃）		五〇〇
ティラー借料（〃）		九〇〇

◇もみずり賃

水稲	（二十俵以下）	一俵四五
〃	（二十俵以上）	〃四〇
陸稲	（二十俵以下）	〃五〇
〃	（二十俵以上）	〃四五

自立農家の規模
水田七十アール畑八十アールがめやす

八郷町の自立農家としての規模のめやすは、水田七十アール、畑八十アール、あわせて一・五ヘクタールとさだめた。

これは家族数六人で、そのうち農業労働力が三人、それによる粗収入は六十万円が見込まれている。

この自立農家規模の一・五ヘクタールにみたない農家の対策として、①一ヘクタール以上一・五ヘクタール未満の農家は、規模の拡大をつとめてはかり、自立可能な一・五ヘクタールの線にひきあげること。②一ヘクタール以下の農家は協業化をはかったり、そのままの規模で専業農家でいる場合は家族数、労働力により経営内部の改善などで「年間完全就業化」を行ない、農業所得の倍増をはかり、一・五ヘクタールの農家収入と同額に上昇させること。―以上のようなことを自立規模にみたない農家対策としてあげている。

また、農業協同組合の合併促進については、国・県などとタイアップしておしすすめることとし、町の促進協議会が発足するまでは、農業委員会振興部会が中心母体となって強力に推進することになりました。

心から平和を願い
しめやかに合同慰霊祭

町では十一月五日、高友丸山殉国碑の前に祭壇をもうけ戦没者一千百五十一柱の合同慰霊祭を行なった。

この日、絶好の秋日和にめぐまれ、一千三十四名の遺族や関係者が多数参列、英霊の冥福を祈った。

式は仏式によってしめやかに行なわれ、祭主である町長から町政の報告をし、「さらに平和な明るい町にして、戦没者の霊にむくいたい」と遺族とともに涙を新たにした。

つづいて町遺族会長の菊地さんは「私たち遺族は心から平和を願って止みません」と述べ、県遺族代表のことばなどがあって、おごそかに式は終った。

故障なくして気持よい通話
―話電送放線有―

これからは、風の強い日や雨の日が多いので、自然家のなかにいる日も多くなり有線放送の利用がひんぱんになります。

ところが、いくらボタンを「ガチヤ、ガチヤ」やっても一向に交換台は出ないどうして有線放送の故障がこれから急に多くなるのでしょう。

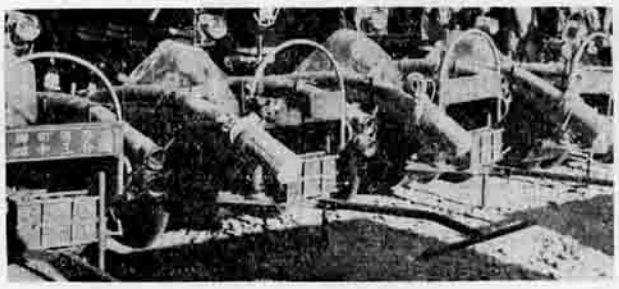
これは、風や雨のために木の枝などが、有線放送の電線にふれるためにおこる放障なのです。

お骨折りでも、区長さんや有線放送の代表の方のご指導で、今すぐ「こさばらい」を実施いたしましょう。

また、木の枝などによる損傷のほか、毎年狩猟解禁の十一月を過ぎると猟銃や空気銃の散弾にあたって最も発見しにくいケーブル線の故障がおきます。有線放送電話線や電柱の付近での狩猟は、特にご注意くださるようお願いいたします。

有線放送は皆さんのものです、いつでも気持よく、お知らせや通話ができるようみんなで協力しましょう。

小型動力ポンプ
五台購入　消防



町では、さきの議会で可決されていた小型動力ポンプ五台を十一月十六日購入、役場前広場で消防団に引き渡しを行なった。

引き渡されたポンプは、柿岡館地内の小倉川で放水試験をし、それぞれの分団に配置された。

この小型動力ポンプは、芝浦F65型可搬動力ポンプ（国消検定品B3級）で、次の五つの分団が活用する。

第三分団（柿岡北町）
第二十六分団（大増）増設
第四十三分団（永沼）
第四十五分団（南山崎）増設
第五十六分団（小野越）増設

（写真は購入された動力ポンプ）

町庭球クラブ発足
柿小校地内にコート新設

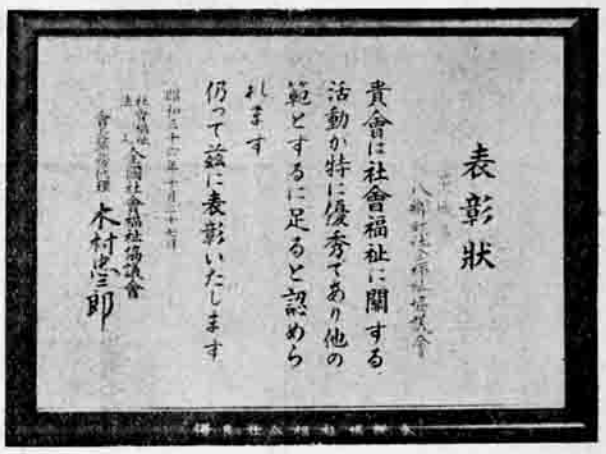
さる五月頃から庭球愛好者によって準備されていた「八郷町庭球クラブ」がこのほど誕生した。（会長は滝田欣一氏）

また、クラブでは柿岡小学校地内に周囲をネットでめぐらしたコート一面を関係者の協力で完成、コートびらきをかねて文化祭テニス大会が二十日行なわれた。

町一周駅伝
12月7日
恒例の八郷町一周駅伝大会が、十二月七日に行なわれることになりました。ふるって参加してください。

12月の納税
固定資産税　第三期　25日限り

町社会福祉協議会
優良団体で全国表彰


表彰状

貴會は社會福祉に關する活動が特に優秀であり他の範とするに足ると認められます
仍って茲に表彰いたします

昭和三十六年十月二十七日
社會福祉法人全國社會福祉協議會
會長 木村忠二郎

（全国表彰をうけた町社協の表彰状）

町社会福祉協議会は、十月二十七日東京厚生年金会館でひらかれた〃全国社会福祉大会〃で全国社協会長から「優良社会福祉協議会」として表彰をうけた。

この表彰は町社協が全国でもめずらしい全戸会員制をとっており、住民と直結した社会福祉事業を行なって特に優秀で他の模範だと、全国から他の二十四の社協と共に選ばれたものです。

特に優秀だとされた事業は老人援護、青少年の保護育成母子家庭の援護、季節保育所の設置や児童遊園の施設など社会福祉のあらゆる面に、町民みんなが協力理解しあっていることがあげられている。

町民運動会 文化祭
各地でにぎわう
小桜は〃小桜祭〃十周年

恒例の町文化祭は十一月十八・十九・二十日の三日間、柿岡小・中学校を主会場として行なわれた。

文化祭行事は、書道展、写真展、古代文化展、各種品評会、俳句会、庭球会、野球会、柔道会、剣道会など二十数種にわたり会場はひっきりなし集まった人達で埋められていた。

また、町民レクリェーション大会は二十日文化祭とあわせて、各地区から小・中学生婦人、老人、消防団員などが柿岡中学校グランドに集まって楽しい一日を送った。

それと前後して、各地区では合同秋祭りとかねて地区それぞれの色彩豊かな文化祭や地区町民運動会を行ない、特に小桜では〃小桜祭十周年記念〃として十一日自衛隊音楽隊を招いて文化祭とレクリェーションが盛大に行なわれた庭球、野球の記録は次の通り

▽庭球
順位 ①三輪、来栖（研究所）②笹沼、木村（役場）③菊地、塚田（研究所）④森、大塚（柿岡）⑤横内、近藤（研究所）⑥斉藤、加藤（小桜）

▽野球
順位 ①Y・M・C ②柿岡 ③芦穂クラブ ④役場A ⑤小幡ヤンガース、役場B、小桜、十五日会

〃小桜祭〃の自衛隊音楽隊の吹奏①と写真展

解説 酔っぱらい防止法
飲酒は度を越さないで

ことしもあと一ケ月で終ります。年末年始のあわただしさと共に、忘年会、新年会が催されるシーズンです。

そくにトラ退治法といわれる「酒に酔って公衆に迷惑をかける行為の防止等に関する法律」という長い名前の法律が、七月一日から実施されていますが、まだまだこの法律などごぞんじなさそうなトラを見かけることがあります。

酔っぱらって人の迷惑もかまわず大声で騒ぎ、からむ、あばれる、そのたびに私たちは苦々しい思いをさせられてきましたが、それでも「酔っていましたので」ということで簡単にすまされたり、がまんさせられていました。このような「酔っぱらい天国」にストップをかけるのがこの法律なのです。

〃酒は飲むもの、飲まれるものでない〃ということがネライで、①節度ある飲酒を期待する。②度を過ぎた酔っぱらいが公共の場所やバスなどの乗りものの中で、他人に迷惑をかけることを防ぐこと。③酒乱から家庭悲劇をなくすため、アル中毒の人に治療の道を開く。という三つのことが中心になってきめられています。

道路や飲食店、バスなどで〃荒々しく下品な言葉や、乱暴な言動〃をして公衆に迷惑をかけますと、救護施設や警察署などに保護されることがあります。これは本人の救護を目的としてとられる措置でそのまま放っておくと車にひかれそうになったり、暴力をふるうなどの危険から遠ざけようというものです。

保護した場合は、二十四時間以内に家族や知人に引き渡されます。さらに度を越して著しく公衆に迷惑をかけるようなことをしますと、拘留か科料の罰を受けます。

それでは、酒は家庭で飲むのが一番ということになりますが、これも程度を越してはいけません。

酔っぱらって家族や同居人に乱暴したり、物をこわしたり、危険だと認められる場合は、住居内にも警察官が〃立ち入る〃ことができます。つまり酔った上での家庭悲劇をなくそうという趣旨です。酔っぱらって何回も保護されたり、いつも酔っている人など、アル中毒と認められるものは、保健所へ連絡されます。保健所では診断のうえ必要のあるときは、治療を受けさせることになっています。

よく酒の席上で「もうたくさんです」と辞退しても「いや、まだまだ」としきりにすすめることが、客をもてなす礼儀とされていますが、こういったもてなし方にも、反省しなければならないところがあるようです。酒はムードを楽しみながらハメをはずさない程度に飲むことです。

農業作業
果樹苗木の植え付け
大きく丈夫な樹に

新しい農業のありかたとして果樹栽培は古くから注目されていましたが、最近特に麦作から転換する農家が多いようです。そこで今月は、苗木の植え付け期にあたり、その注意点などをあげてみましょう。

植え穴は大きく

果樹の収量を高める秘けつは、果物をつけるまでに、できるだけ樹を丈夫に大きく仕立てることです。

それには、根を十分発育させねばなりません。

このためには、①樹と樹との間隔を十分とること、②植え穴をできるだけ、大きく堀ること、③十分な施肥を行なうこと、の三つです。

特に耕土が浅く、心土のかたい畑では、果樹の根は一年に一メートルものびるので、植え穴の大きさも直径二メートル、深さ一メートルにすることが大切です。

排水の悪いところに植え付ける場合は、みぞを作ったり傾斜地では段畑にして土砂の流亡を防ぐ工事が必要です。

たい肥と土を交互に

植え穴を堀ったら、落葉かソダに少量の肥えた土を混ぜて入れ、堀り上げた表土の部分を埋め戻します。

半熟たい肥を入れ、土を戻し、更にたい肥と土を交互に入れ、埋め戻します。この場合、表面に近いたい肥には、よく腐った鶏糞と灰を混ぜてやるか、ない場合は少量の化学肥料を混ぜて下さい。

植える準備が整ったら、雨で自然に土がさがるのを待って植え付けます。苗木を植え込むときは、苗木の根の状況を調べ、折れたり傷ついているものは切り直しをします。

深植えせず支柱をたてる

苗木の中心は高目にし、根の先は幾分低く、根は四方にひろげ深植えにならないよう砧木が見える位にして植えます。植え終ったら支柱を立て苗木が風などにゆれないようしばりつけます。

必ず実行して欲しいことは植え終えたら灌水を十分行ない敷草を苗の根本に敷きつめます。

苗木の植え付け時期は、葉の落ちる果樹（ナシ、カキ、クリ、ブドウなど）は、特に寒い所でなければ、十一月下旬～十二月中旬頃までがよく風のない日を選びます。

最後に、苗木をどの程度に切りつめるかは、種類、仕立て方、植え付け間隔などにより違いますが、どんな種類をどんな形に仕立て上げるかはじめから決めてかからねばならぬ重要なことです。

従って、まだ決めていない方は、技術者なり、栽培者に問い合わせて、立派な果樹園を作って下さい。

産業訪問 (3)
少ない労力で多くの収益へ
大字上曽根 足立みかん園

今月は「八郷みかん組合」の組合長をしている大字上曽根の足立喜一郎さんの〃みかん園〃を訪問して、八郷みかんのようすなどをうかがってみた。

当町のみかんは、筑波、加波、足尾、難台の山ろく地方につくられて、ふくれみかんも多いが、やはり温州みかんが多く、二百五名の組合員をもつ「八郷町みかん組合」は、名実共に県下一である。八郷みかんは、東京市場で「神奈川ものと変らない」と折がみをつけられており、特に貯蔵が永くきく点が長所とされている。

みかん栽培のいいところは「一寸の肥料と消毒をすればよいので手間は果樹栽培のつぎにかからない。せんていは、してもしなくてもよい」と足立さんはいう。農家の働き手が少ない昨今であってみれば、少ない労力で多くの利益を得ることが新しい農業の課題だ。その点ここでのみかん栽培は北の限界線とはいえ、需要面などからみて将来は洋々たるもの。

「上曽でみかんつくりをはじめたのは、昭和二十六年に田中博士の講演に動かされて次の年の春に植えつけしたんです」というから、丸十年のものがいちばん古い。町全体で、来春新しく四十～五十ヘクタールが植え付けされるので、八郷町の農業に、みかんの占める位置も、かなり大きくなる。東筑波の山ろく一体を、みかんで埋めつくして、家族づれで東筑波のみかんがりへ〃の夢も遠くないことだろう。

写真は温州みかんと足立さん

俳句

（文芸）

俚謡

柿岡 平寿亭

笠間お稲荷菊見のバスを
二台連らねて福寿会
神の御恵み観菊日和
笑顔描えた福寿会
恋瀬 長寿会 浅野草雄

◇老人クラブの唄

一、長い浮世の苦労も忘れ
唄や踊りの長寿会
二、唄や踊りで若さを戻し
永く生きましょ健やかに
三、年は取っても社会の為に
愛の心は忘れまい
滝田 玉水選

俳句

瓦会 増子 海哉

八郷町慰霊法要（十一月五日）
泣けてくるメガホンの
声 秋天へ
満天皇の粧ひ
深く日襲
小塙 岡野美智緒

熊手あと集まり
落葉盛られあり
小倉 中島 峯蘭

短日や鍬一パイに
汗しづく
柿岡 平 寿亭

唄乗せてはづむや
菊の戻りバス
センターの温泉ぬるし
菊 蕉 る
柿岡 滝田 玉水

（婦人会吾妻スカイラインの旅）

五色の水すみて
警梯の天青し
道は空紅葉に沈む
検 札 所

短歌

川又 前島 夢人

秋草を手向けて
見馴れざる女が
戦没の墓にしばし
ぬかずく
根小屋 林 韻月

「慰霊祭」

幸いに秋空澄める
今日の日に吾が
八郷町の慰霊祭挙ぐ
みいくさの思に新たに
額つけばわが英霊の
勇姿浮び来ぬ